

職員の皆さんへ

いよいよ桜満開の春が市内の名所を美しく彩り、地域全体に躍動感が漲っています。そして本日、新年度のスタートを迎えました。

さて、このたびの人事異動につきまして概略申し上げます。

今回の職員人事は、効率的な行政運営を図るため行政組織改編を行ったことにより、例年を上回る異動の規模となりました。

組織改編の主なものは、産業振興部を農林水産部に名称変更するとともに、産業振興部商工物産課を文化観光部に組み入れ新たに文化観光商工部に再編いたします。また総務部に人事課を創設し、これまで行革推進課が担っていた業務を人事課と総務課に再編いたします。建設部まちづくり課は都市計画課として課名を変更、生月保育所ならびに山田保育所の閉所に伴い「生月こども園」を開園、定住推進を図るため総務部地域協働課に定住推進班を新設いたします。そのほか業務に応じた班名の変更を行っております。

なお異動にあたっては、必要最小限の退職者補充を念頭に、職員の適正配置および人員体制の見直しを考慮し、適材適所の異動を行いました。

その中で、商工物産関係では、今後の企業誘致の推進を図るため、長崎県産業振興財団に1名の職員の派遣を行いました。

そのほか、財務部企画財政課については、平戸市総合計画策定年度にあたることから1名の増員、市民福祉部福祉課については、子育て支援の充実強化を図るため1名の増員、選挙管理委員会については、市長及び市議会議員選挙並びに県知事選挙に対応するため1名の増員を行いました。

皆さんもこれまでの経験からご存じのとおり、それぞれ職員が入れ替われば、当然のことながら職場の雰囲気も変わります。各部局においては、今回の異動によって更なるチームワークづくりに励み、常に明るい職場環境の中で、それぞれのやる気と能力を引き出しあいながら、心機一転、市民の信託に応えられる体制づくりを構築していただきたいと思います。

ご承知の通り平成 29 年度は、平戸市総合戦略の 3 年目を迎え、また第二期平戸市総合計画策定の節目の年となります。解決すべき行政課題は依然として山積しており、「市民が主役、行政は脇役」のスローガンのもとこれまで進めてきた事業はもちろん、予定されている重要施策や時代のニーズに適応しなければならない課題など、さらなる努力を重ねていかなければなりません。

先週、熊本地震の被災自治体への支援の御礼として熊本県宇城市の守田市長と元松市長が本市を来訪されました。その中で心がけておかなければならないお話をお聞きしましたので、少しご紹介します。

すでに報道の通り、熊本市を中心とする震度 7 強の地震は、多くの犠牲者ならびに被災者を出し、深刻なダメージを周辺自治体のみならず九州全体にもたらしました。今回、浮かび上がった注目すべきお話は、全国から支援物資が寄せられ、被災者が待つ避難所に配布される時のことです。

被災直後は、自治体職員がそれぞれ支援物資を配布していたのですが、その都度、市民の皆さんから被災地域の相談、悩み、苦情などがその現場の職員に対し矢継ぎ早やに寄せられ、その職員は物資を届けるだけの担当業務にとどまらないクレーム処理に立ち往生したとのことでした。

一方、そこには全国から集まったボランティアの方々も到着し、そうした支援物資の配布作業を交替して、その業務に当たったところ、それとは知らない被災者数人の方から苦情などをぶつけられたその時、「私たちはボランティアの者ですよ」と答えると、その人たちの態度が一変して、「ボランティアの人とは知らなかった。悪かった。助けにきてくれてありがとう。あなたたちだけにこの仕事を押し付けるわけにはいかない。我々も手伝うよ」と被災者自らが、ボランティアメンバーとともに動き出したということです。

この心理状況は、市民と公務員の関係を象徴する一つの現れではないかと切ないのを感じます。と同時に、一つの事業を進める上で大事なことは、プレーヤーを誰が担うかということで現場の状況が大きく違ってくるということでもあります。

つまり、公務員が直接やるべき、またやらなければならない業務がある一

方で、公務員ではない違った立場の方がそれを担うことで、物事がスムーズに進行することもあるのです。これは業務の適合性、合理性や効果などを考えていくとき、公務員は直接の実践者であると同時に、コーディネーターとしての役割も担う場面に出くわすということを認識しなければならないということです。

特に、これまで進めてきた地域コミュニティづくりについて、先行する度島地区に続き、生月や大島、南部や中部地区、田平各地区において具体的な段階に進められている中で、それぞれ特有の行政課題が存在し、これらを解決に導くためには、当然公務員が直接かかわるものと、一方で経験豊かで実践力に富んだ地域の方々が担っていただいたほうが効率的で効果が期待されるものなど、そうした役割分担について、各まちづくり運営協議会でしっかりとした議論を積み重ねていただきたいと思います。そうした自助・共助・公助の仕組みが縦横無尽に支えあってこそ、魅力ある自立した持続可能なまちづくりが実現できるものと確信しています。

私たちは、公僕として従来業務に加え、最適な担い手と信頼関係を結んでいくコーディネーターとしての側面を身につけ、胸を張ってまちづくりの演出家としての役割も果たしていかなければならないと思います。

そうした積み重ねこそが、平戸市が本来有している様々な実績と優位性に加え、市民の皆様との「協働して成し遂げる新しいまちづくりへの感動」を共感・共有しながら、安全で安心できる、そしてより多くの人から愛され、親しまれ、訪れたいまちづくりに向かって全力を尽くしてまいります。

以上、新年度における職員の皆さんの活躍を期待して、年度当初の挨拶といたします。

平成 29 年 4 月 3 日

平戸市長 黒田成彦